

## 令和6年度三田市高校生議会 質 問 書

**【質 問 者】** 9番 兵庫県立三田祥雲館高等学校 2年 出水 朝陽 (いずみ あさひ)

**【担 当 課】** 健康福祉部 高齢者支援課、都市整備部 交通政策課

**【答弁予定者】** 副市長

**【質問事項】** 「高齢者の移動支援サービス」について

### 【質問内容】

9番 高校生議員 兵庫県立三田祥雲館高等学校2年の出水 朝陽です。

私からは「高齢者の移動支援サービス」について質問します。三田市は兵庫県全体に比べて高齢化率が高く、高齢者の免許返納が促進される世の中で高齢者が移動するのは大変だと思いこのテーマにしました。

現在三田市は広野の「あいのり一号」などの路線不定期の移動サービスを運行していますが利用者数が少ないという現状にあります。これは移動支援サービスを必要とする人たちのニーズに合っていないのが原因であると思います。このサービスを必要とする人は、自分で運転できる、または定時定路線のバスを利用できるといった自力で買い物に行ける人と、常に介護が必要な人の中間に位置する、認知機能や身体機能などに若干の心配がある人や何かしらの援助が必要な人であると思います。これらから昨年度提案のあった定時定路線ではない移動支援サービス（いわゆるオンデマンド型バス）の運行に加えて、利用したい人を支援する人が同時に必要であると思います。

そこで私は支援者とともに高齢者を行きたいところへ運ぶ福祉融合型タクシーの運行を提案します。タクシーの運行を介護士または民生委員や自治会メンバーなど信頼できる支援者とともに行うことにより高齢者の生活状態や健康状態も把握することができ、高齢者の利用しやすいものになると思います。そしてこのようなサービスが実現できれば、外出に不安を覚える高齢者の方が孤立化することを防ぎ、安心して買い物や医療機関に行くことができるようになることで、生活の質や健康寿命を高められると考えます。

今後の移動支援サービスの在り方について市の考えをお聞かせください。

---

#### 【答 弁 内 容】

私からは議員ご質問の「高齢者の移動支援サービス」について回答いたします。

本市が直面する人口減少や高齢化といった人口構造の変化、運転免許の返納や若者の車離れ等に伴い、公共交通の重要性は高まってきており「誰もが気軽に移動できるまち」を目指すため、令和5年度に三田市地域公共交通計画を策定いたしました。本市では鉄道、バス、タクシー等により移動サービスを提供していますが、これら公共交通が利用しづらい地域については、公共交通を補完・連携・支援する地域内の移動手段として、「あいのり1号」を始めとする地域内交通に取り組んでいます。地域内交通の運行では、地域の皆様と共に、利用状況やニーズの把握に努め、多くの方が継続的にご利用いただける移動サービスを目指し、取り組んでいるところです。

議員ご提案の福祉融合型タクシーの運行ですが、支援者とともに高齢者の移動や生活などをサポートするという取組は、高齢者の生活の質や、くらしの安心感を高め、社会的孤立の防止に大いに役立つものであると考えます。

現在、本市では、同様のサービスとして、地域のボランティア活動により、支援が必要な高齢者の方への買い物や病院への付き添いなどの外出支援や移動支援の取組が進められています。市ではそのような取組に対して、市内6カ所に、高齢者等の総合相談、権利擁護や介護予防に必要な援助などを行う地域包括支援センターや、地域の福祉課題を住民の主体的な参加により解決されるよう支援する地域福祉支援員兼生活支援コーディネーターを配置し、生活上の困りごと相談やボランティア活動の立ち上げ・継続などの支援を行うとともに、地域の困りごとを抱える方を支える地域ネットワークづくりを進めています。

また、昨年7月に本市は全国でも類を見ない「神姫バス株式会社との担い手共創プロジェクト」を締結するなど、今まで以上に公共交通機関との強い関係を構築しており、公共交通との共創支援も今後期待できます。

議員ご質問の高齢者の移動支援サービスの在り方については、地域包括支援センターや地域福祉支援員が中心となって、各地域の実情に合わせた課題の解決ができるよう、担い手の育成や既存の地域資源の有効活用を図るとともに、事業者、団体等と連携して、高齢者がより利用しやすい支援の方法について、本市の地域福祉活動のネットワークを生かし、議員ご提案の趣旨を十分

に踏まえて、検討してまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。